



TITLE:

米價の高低と一般物價の高低

AUTHOR(S):

河田, 嗣郎

CITATION:

河田, 嗣郎. 米價の高低と一般物價の高低. 經濟論叢 1919, 9(3): 455-462

ISSUE DATE:

1919-09-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127567>

RIGHT:

京都帝國大學經濟學會 經濟論叢

第九卷 第三號

大正八年九月一日發行

論說

農家者流の經濟思想……………

法學士
文學士

小島祐馬

住居税の利害と高級住居税の提案……………

法學博士

神戸正雄

經濟的行爲と道德的行爲との關係……………

法學博士

田島錦治

社會政策上より觀たる吾國の財政……………

法學博士

小川郷太郎

時事問題

同盟罷業の頻發……………

法學博士

戸田海市

朝鮮統治の根本問題……………

法學博士

山本美越乃

銀行の手形引受制度……………

法學士

大森研造

雜錄

米價の高低と一般物價の高低……………

法學博士

河田嗣郎

社會問題評論(一)……………

法學博士

神戸正雄

和田垣、内田兩博士の永眠を悼む……………

法學博士

神戸正雄

京都帝國大學經濟學部規程●經濟學部大正九年度授業擔當

雜 錄

米價の高低と一般物價の高低

河 田 嗣 郎

一 先般、東京朝日新聞社から現下の三等白米一升の小賣相場は幾干なるを以て正當とするかとの公開的質問に接したことがあつたが、私は終に之に答へることが出来なかつた。といふのは理論的に致へて現在に於ける白米三等品の小賣相場は果して何程なるを以て正當とするかを知ることが出来難く、いゝ加減な常識的見當を書いて之に答へるだけの無責任を私は敢てし得なかつたからである。

言ふ迄もなく財貨の價格に就いては其の市場價格と正常價格との考へ得らるゝのであるから、前問の如く現今白米三等品の小賣價格は何程なるを以て正當とするかといふが如き場合に

は、其の市場價格は現に實際的に之を見る通りなりとして、扱て其の正常價格と見らる可きものは現在何程に當る可きやと問ふものと解釋せなければならぬ。して見ると是は中々六ヶ敷い問題であつて、或意味からいへば難題である。蓋し正常價格は理論的には存在すべきものだけれども或商品に就いて其の或時期或市場に於ける正常價格を何圓何錢何厘と明確に指示することはよほど困難なるが故である。

即ち商品の市場價格は或市場に於ける其時々實際の需要と供給との適合の狀況に依つて定まるのであるけれども、其の正常價格なるものに至つては、其の需要と供給とに就いて正常的なる需要と正常的なる供給と考へらる可きものを見、且つ其の正常的需要を滿すが爲めに必要なるだけの正常的供給を行ふに就きて、其の供給を行ふが爲めに要する生産の限界の生産費を見出し此を以て其の標準とせなければならぬ。然らば今我國現在の或市場例へば東京に於ける三等白米の正常的需要と正常的供給とは各之を

如何にして知り又兩者の適合狀況は如何にして之を知り得るか。之は何等かの方法に於て知り得るとするも、然らば其適合に依りて生ずべき價格の標準となり之を制調す可き限界生産費は如何にして之を知り得るか。之を精確に知り得ることは現今の統計材料や其他の調査資料を以てしては所詮望みなき所と謂はねばならぬ。

斯く考へ來ると私はとても輕卒に右東京朝日新聞社の掲げたるが如き質問に答へ得るものではないと考へざるを得なかつた。多くの朝野の名士は明かに一升につき何十何錢何厘と答へられたやうであつて紙上に其名を列して一々其答が記載されてあつたが、此等の諸名士は如何にして此の計算を爲し得られたか。後學の爲め是非其教を受けたいものである。弘共も平常から如何にかして米價(米價には限らぬけれども)の或代表的の市場に於ける正常的價格を見出すを得、各年を通じて其標準を見出すを得たならば研究上にも政策上にもどれほどか利便多かるべきにと思ひ居るものなれば、今此等の名士諸賢

から其教を授かるを得ば、どれほどか仕合であらう。

然し乍ら翻て之を察すれば、諸名士の答なるものも其多くは、他の物價との割合から考へて大抵此位ならば正當なる可しとか、戦前の米價が何程で其後一般物價騰貴の歩合が何程なれば現在米價は此位ならば正當なるべしといふやうな大ざつばな計算から出たものであらう。而して農家や穀物商人やの間に於ける所謂黒人筋の答に至ては、生産費に關する計算が基礎となれるもの少からざるべきを思はなくはならぬが、之れとても、自家の經營に於ける計算を基とするか、然らざれば或る一地方の平均的若くは中庸的生产費を基とするものと想像して多く間違はないであらう。若し果して然りとせば此等の明示されたる正常價格なるものも、謂はゞたゞ岡眼八目たるに過ぎぬのであつて、何等學術的價值あるものとはいへぬ。東京朝日新聞社の希望せる所も恐くは此の岡眼八目に存し學術的に正確なるものを求めたわけではあるまい。

岡眼八目にしろ何にしろ兎も角社會の或人々よりして新聞社が斯かる問題に對する答を得て又廣く之を社會に知らしめんと企つるは、現今米價の騰貴著しくして、實に未曾有の高値を示し、爲めに社會人心が少からず不安を感じつゝ、あが爲めでなくてはならぬ。由來米價の急激なる騰貴は他の物價の騰貴になして著しく鋭敏に社會の神經を刺戟するものである。現に昨年の八月にはかの米騒動をすら演出するに至つたやうなわけで、之は今日に初まつたことでもなく、又獨り我國に特有なる現象でもない。穀物の極端なる騰貴が終に社會革命の導火線となつたやうなことは西洋にも其例少からざる次第である。而して世間通俗の考では、米價の騰貴が他の物價の騰貴よりも更に著しく、又米價高きが爲めに他の物價も之に伴はれて騰貴し行くものなるかに考へられ、又ともかくも生活の必需品中米ばかり吾等の生活に直接至大なる關係を有するものはなきが爲めに、特に其の騰貴を苦痛とし、之を呪ふの事情あるは否み難き所である。

私は現今米價が何程なるを以て正當とするかに就きて正確なる解答を與へることが出來ぬから、せめて、米價の高低と一般物價の高低とを、開戦以來本年五月末に至る迄の間に就きて比較し、米價騰貴の狀勢が從來如何なる有様を以て進み來り、今又如何なる狀況を呈しつつあるかを講究して、それが現在果して一般物價の標準に對して、高きに過ぐるや否や、高きに過ぐるとならばどれ程位高きに過ぐるかの問題を實地に檢査してみるであらう。何程の價格を以て正當の價格と爲すやの知り難き以上は、それが一般物價の標準に對して高きに過ぐるや低きに居るやだけでも知り得んことは、吾等に取つては問題の攻究上必要なる所で、又せめてもの心遣りである。

二 右の意味よりして米價騰貴の狀況と一般物價標準の變動との比較を試みるが爲めに、先づ日本銀行の調査(東京物價調)に従ひ、大正三年以來各半期末に於ける米價指數の變動と五十六種重要物品の價格指數の變動とを示せば左表の

右の如くにして昨年の上半期までは一般物價よりも却つて下位に在りし米價騰貴の勢が昨年下半年期に入るに及びて俄かに其の狀態を變ずるに至りたるは洵に注目に値する所である。仍て昨年七月以降本年五月に至るまでの各月の物價指數の變動を見、米價と一般物價との騰貴の比較を檢してみやう。

同じく日本銀行の調査に従ひ東京に於ける昨年七月以降本年五月に至るまで各月の米價指數の變動と六十七種貨物の平均指數の變動とを表にして示せば左の如し。

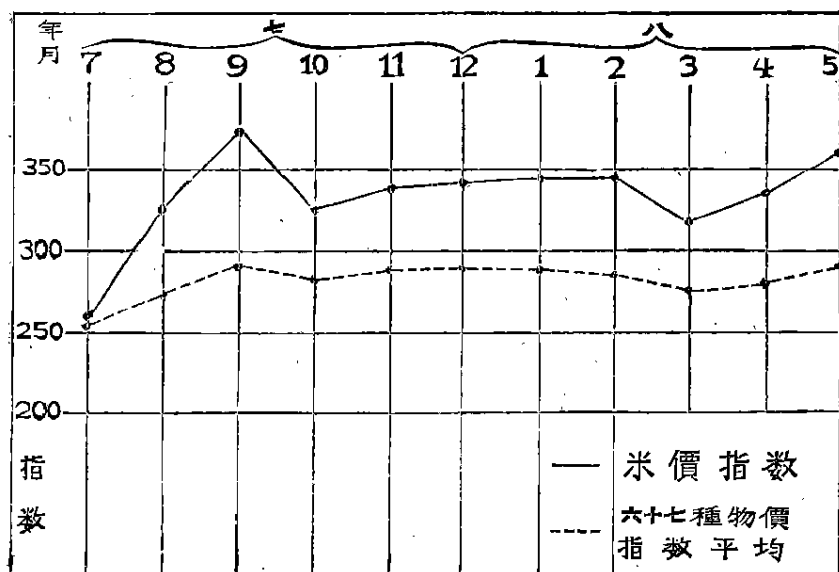
大正七年					大正八年				
七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月
米	三六・八	三六・七	三六・七	三六・七	三六・七	三六・八	三六・八	三六・八	三六・八
六十七種 物品平均	三六・七	三六・七	三六・七	三六・七	三六・七	三六・八	三六・八	三六・八	三六・八
兩者の差	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一	一・一

雜錄

米價の高低と一般物價の高低

右表の示す所に依れば昨年八月以後に於ける米價騰貴の勢は可也顯著なるものであつた。即ち六十七種物品の平均的騰貴歩合に比すれば遙かに強大なる勢を以て騰貴し來り、兩者の懸隔は昨年九月を以て其の絶頂(八七・五〇)に達した。其の以後本年上半期に入りては米價騰貴の勢やや衰へ、三月には平均指數に對する差最少(四四・〇二)なるに至つた。然し本年四月以後は又候強き騰貴の勢を示し來り五月には既に平均指數を抜くこと七五・三一たるに至つた。言ふ迄もなく米價は其の高き傾向の下に於ては常に下半期に於て高く端擧期に於て最も高きに上ばるを例とするのであるから、本年の下半期特に八月の候には一般物價に對し、更に著しき騰貴歩合を示すことであらう。統計材料の未だ用ゆ可きものなけれども、此の狀態は現に吾々が目撃しつゝある所である。

前と同じく昨年七月以降に於ける米價指數と六十七種物品の價格指數との變動の狀況を圖に作りて示せば左の如し。



右の如くなるが故に昨年七月以後現今に至るまでの狀勢に於ては米價の騰貴歩合は頗る大にして米價は多數重要商品の平均的騰貴歩合以上の騰貴を爲しつゝあることを否み難いのであるけれども右の圖形に於ても之を見得可く、又前に掲げたる大正三年以來昨年迄の各半年の指數の變動を示せる圖形に於ても之を見得べきが如く、米價の指數の變動の狀況は平均指數の變動の狀況と割合に好く相呼應せるものであつて、決して之と懸離れたる突飛なる亂高下を演じつつあるものではない。然し兎も角昨年下半年以來米價は一般物價並み以上の騰貴を爲したるは事實であつて、之が爲めに甚しく社會の神經を刺激するに至つたのである。特に現下の狀勢が尙ほ此勢を増さんとするの勢に在るが爲に、社會の不安は益々甚しからざるを得ぬのである。

三 右は米價に就いて見たのであるが、吾等の生活に取りて重要な米ばかりではなく、特に此頃のやうに米價高き際に當りては他の穀類の相場も甚だ重要な意義を持たざるを得ない

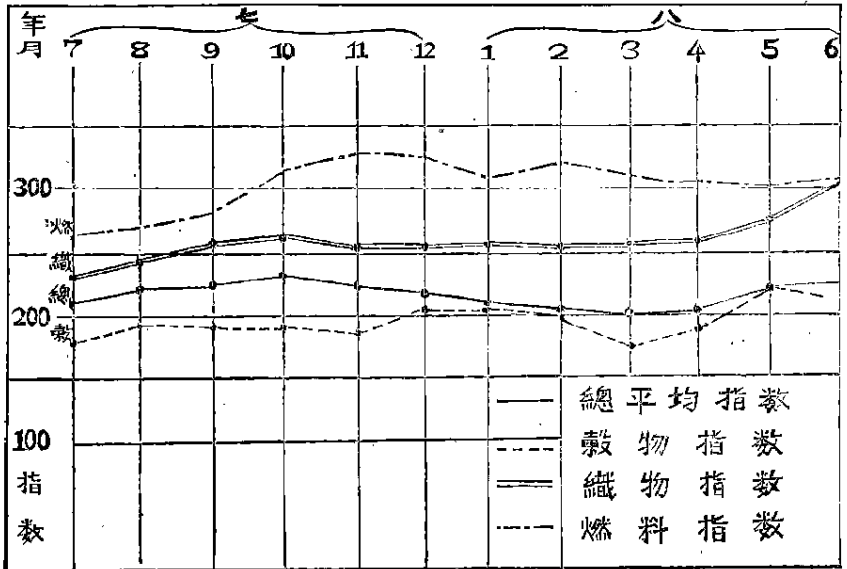
仍て試に一般的に穀物の相場に就きて其の昨年下半年以來に於ける變動の状況を見、殊には織物や燃料の如く同様に吾等の生活に取りて必要なるものゝ相場の變動との比較を示してみるであらう。

東洋經濟新報の物價指數に従ひ右三者の比較を爲せば左表の如し。

大正八年						大正七年						穀物	織物及 同原料	燃料	總平均
六	五	四	三	二	一	十二	十一	十	九	八	七				
月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月
末	末	末	末	末	末	末	末	末	末	末	末	末	末	末	末
三三・九	三五・九	一八・九	一七・五	一九・六	二八・八	一〇・五	一九・三	一六・六	一九・四	一六・二	一六・五	一〇・五	二四・八	二四・三	二七・六
三〇・一	二七・七	二五・一	二五・〇	二五・〇	二五・一	二五・〇	二五・七	二六・一	二八・七	二八・二	二八・五	二八・八	二四・八	二四・三	二七・六
三〇・〇	二七・六	二五・〇	二五・〇	二五・〇	二五・一	二五・〇	二五・七	二六・一	二八・七	二八・二	二八・五	二八・八	二四・八	二四・三	二七・六
三〇・〇	二七・六	二五・〇	二五・〇	二五・〇	二五・一	二五・〇	二五・七	二六・一	二八・七	二八・二	二八・五	二八・八	二四・八	二四・三	二七・六

右表の示す所に因れば、穀物の騰貴歩合は本年五月に至るまでは重要商品總平均（一般物價と見らる可きもの）の騰貴歩合よりも低く織物及同原料や燃料の如きに比較すれば、遙かに小

雜錄 米價の高低と一般物價の高低



第九卷 (第三號 一九) 四六一

る騰貴歩合を示すに過ぎぬ。

例に依つて之を圖形に書きかへて示してみやうならば上圖(前頁下段)の如し。

されば今吾等は食料品の價格騰貴の爲めに大いに脅かされつゝありと雖も、好く之を實際に就いて檢すれば、米價や穀物一般の價格の騰貴は甚しく亂調子なわけでもなく又突飛に一般物價と掛け離れたる暴騰を爲しつゝあるわけでもないことは之を知るに難からざる所である。從て米價の騰貴に對して甚しく之を不合理視するは當らず、米價は寧ろ一般物價と呼應して騰貴し來り、其の騰貴は一般物價の騰貴以外米穀に特有なる理由に依りて促されたる所よりも一般物價騰貴の理由に依りて促されたる所大なるべきを思はなくてはならぬ。唯だ本年下半期に於ける事情は尙ほよく之を檢するを得ざれば如何とも判斷し難けれども、少くとも本年上半期迄の實狀に於ては右の如く云ひ得らるゝのである而して彼の織物や燃料などの騰貴歩合に至つては穀物の騰貴歩合に比して著しく激甚なるもの

あるを知らなければならぬのである。

四 併し乍ら前にも一言せしが如く米穀の如き生活の必要品中の必要品に對しては吾等の生活は其價格に於て痛切なる利害關係を有し、他の貨物以上に其の騰落の影響を受けること大なるものなれば、其の價格をして一般物價以上に騰貴することなからしむるは最も必要なる所である希くは之をして多少は一般物價標準以下に在らしめよ。少くとも一般物價の平均位にあらしめよ。然らば社會は大いに其の生活上の不安を感ずることなくして、吾等の生活はやゝ安定なるを得るであらう。さなきだに不安なる現代の生活をして食料に於て更に不安ならしむるが如きこと勿れ。